

第3回門真市生涯学習推進基本計画策定委員会 議事録

1. 日時 平成25年1月28日(月) 午後2時～午後3時40分
2. 会場 門真市役所別館3階 第2会議室
3. 出席者(委員) 今西委員長、桂副委員長、宮本委員、石原委員、山田委員、
清澤委員、岡本委員
事務局 柴田部長、脊戸課長、清水主任、大家主査、藤田係員
コンサルタント 株式会社ユーエヌ土地利用研究所 中佐、岡本
傍聴者 0名
4. 議題 案件1…策定までのスケジュールについて
案件2…アンケート調査等の報告について
案件3…門真市生涯学習推進基本計画の概要について
その他

事務局 それでは定刻となりましたので、第3回門真市生涯学習推進基本計画策定委員会を開会します。はじめに、お手元の資料の確認をお願いします。

事前にお送りし、本日ご持参頂くようお願いしておりました資料が7つございます。

まず、議事次第です。

次に、資料1「門真市生涯学習推進基本計画策定の経過(平成24年度)」です。

次に、資料2「第1回生涯学習特別研修実施要領」です。

次に、資料3「第2回生涯学習特別研修実施要領」です。

次に、資料4「門真市生涯学習推進基本計画策定に関する平成25年度スケジュール」です。

次に、資料5「門真市生涯学習推進基本計画アンケート調査報告書」です。

次に、資料6「門真市生涯学習推進基本計画アンケート調査報告書(資料編)」です。

最後に、資料7「門真市生涯学習推進基本計画概要(素案)」です。

なお、手元に資料の差し替えといたしまして二枚のシートを置いております。

一枚が門真市生涯学習推進基本計画アンケート調査報告書の7ページと8ページでありまして、修正箇所については後ほどお伝えします。

もう一枚が門真市生涯学習推進基本計画概要(素案)でして、どちらも修正としては少ないものですので、事前にお送りした資料をご覧頂いても特に差支えはございません。出来れば新しいものを見ていただければと思います。

お手元に無い資料がございましたら、お伝えいただきますようお願いいたします。

よろしいでしょうか。

それでは、この後の進行を委員長をお願いいたします。

今西委員長 それでは案件 1 から進めていきます。今報告がありました通り、アンケート調査の結果を頂き、多くの方々の力で概要の素案が出来ておりますので、大変順調に進捗していることが嬉しく思います。どうぞ、活発なご審議をお願いします。

 それでは、策定までのスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

事務局 それでは、案件 1「策定までのスケジュール」について、ご説明いたします。この案件につきましては、平成 24 年度のこれまでの経過と、本日から策定までのスケジュールについて、一括でご説明いたします。質問は説明の後にお願いいたします。

 まず、資料 1「門真市生涯学習推進基本計画策定の経過（平成 24 年度）」をご覧ください。資料 1 におきましては、それぞれの会議やアンケート調査等について、各回の主な内容をまとめたものです。昨年 8 月 10 日に開催した第 2 回策定委員会から本日までに、アンケート調査及びヒアリング調査を実施するとともに、検討委員会を 2 回、ワーキンググループを 4 回開催いたしました。

 検討委員会とワーキンググループでは、アンケート調査及びヒアリング調査の実施方法とともに、門真市生涯学習推進基本計画の概要（素案）を検討してまいりました。アンケート調査及びヒアリング調査の報告につきましては、次の案件 2 で、計画の概要（素案）につきましては、案件 3 で詳しくご説明いたします。

 また、市職員を対象とした生涯学習特別研修を、1 月 23 日に開催しました。これにつきましては、資料 2「第 1 回生涯学習特別研修実施要領」をご覧ください。講師として、今西委員長をお願いいたしましたが、委員の皆様におかれましても、多数ご参加いただき、誠にありがとうございました。この研修は、今後、門真市の生涯学習行政を推進していくにあたり、まずは市職員の理解を深めることが重要であるとの認識から、事務局である地域教育文化課が主催したものです。この研修につきましては、資料 3「第 2 回生涯学習特別研修実施要領」のとおり、2 月 15 日に行います。第 2 回をワークショップ形式で開催することを予定しております。ここでは、第 1 回で伺ったお話をもとに、「今の行政に生涯学習という視点を取り入れていくにはどのようなことをしていけばよいか」について意見交換を行いたいと考えております。

 次に、資料 4「門真市生涯学習推進基本計画策定に関する平成 25 年度スケジュール」をご覧ください。平成 25 年度につきましては、計画の策定を本格的に進めていくために、策定委員会を 5 回程度、検討委員会とワーキンググループをそれぞれ 7 回程度開催したいと考えております。

 また、新たに市民公募型ワークショップを 3 回程度開催したいと考えており

ます。これは、平成 24 年度のスケジュールにつきまして、第 2 回策定委員会において平成 25 年 1 月頃に計画の骨子（案）を公開し、パブリックコメントに付すことを予定していました。しかし、その後の検討委員会の議論において、「検討が不十分な状況で公開し、意見聴取を行うよりも、ワークショップなどを通じて、市民の皆さんから生の声をいただき、計画に反映させた方がよいのではないか」という意見があったことから、平成 24 年度のパブリックコメントの中止とともに、平成 25 年度の市民公募型ワークショップを企画したものでございます。このワークショップを通じて、広く市民の皆さんに生涯学習を理解していただくとともに、計画策定後の様々な協働事業にご協力をいただくための関係をつくりたいと考えております。具体的な日時や実施方法は、今後、検討委員会等で検討したいと考えております。

計画案につきましては、平成 25 年 12 月にパブリックコメントに付し、広く市民のご意見を伺ったのち、平成 26 年 3 月までに策定する予定でございます。策定委員会につきましては計画案の本編について議論し、パブリックコメントが終了した後、修正を行うか一度検討したいと存じます。

以上で、これまでの経過と今後のスケジュールについてのご説明を終わります。

今西委員長

案件 1 について質問などお願いします。特にございませんか？

次に、案件 2「アンケート調査等の報告」について、事務局よりお願いします。

事務局

（ユーエヌ）

これについては、私の方より説明させていただきます。事前にお送りさせていただいている資料が二冊ありまして、一冊にすると分厚くなる問題などがありまして、二分冊にさせていただいております。まず、アンケート報告書ですが、分厚い方の 1 ページの目次をご覧ください。本編は、大きく 5 章に分けさせていただいております。1 章が概要、2 章がアンケート調査のまとめ、3 章が市民アンケート調査結果で、問 1 から問 23 まであります。これが、市民アンケートの本編にあたります。4 章は団体アンケート調査結果で、問 1 から問 18 まであります。これが、団体アンケートの本編にあたります。5 章はヒアリング調査結果で、団体として特色ある活動をしておられる所にヒアリングを行い、それをまとめております。最後に参考として市民と団体のアンケート調査票とヒアリング調査票をまとめております。

別冊といたしまして、資料編でアンケートの数表をつけております。その中でグラフにしていないものもございます。資料 6 の最後のページにあります資料 1、資料 2 の集計クロス表で縦横同じ質問となっておりますが、黒丸を付しております所は本編にグラフを載せているものでございます。例えば、問 1 と問 1 の重なる所は単純集計となっております。白丸を付しております所は本編に反映していませんが、資料編におきまして表を掲載しているものです。

本編ですが、時間の関係で第 1 章、第 2 章を説明させていただきます。第 1 章は

調査の概要ということで、調査目的、調査方法で三つのアンケートを去年の 9 月に行ったこと、市民アンケートは満 15 歳以上の市民の中から 2,000 人を抽出しました。団体アンケートは、生涯学習部が所管する施設を利用いただいています約 1,300 団体の中から、500 団体を抽出いたしました。団体ヒアリングは、広報等による公募に応じていただいた 13 団体からヒアリングを行いました。

結果は 1-4 にありますが、市民アンケートは有効回収数が 635 人、回収率が 31.8%と少なめですが、返送されてきております。団体アンケートは有効回収数が 294 団体で回収率が 58.8%、団体ヒアリングは 13 団体全てにヒアリングさせて頂きました。

第 2 章のアンケート調査結果のまとめで今回の内容に入りますが、報告書の見方、4 ページの下にも書いてありますが、同じ頃に内閣府で「生涯学習に関する世論調査」をされており、その結果も対比できる所は選んで対比しております。時間の関係で、今回は 2 章のまとめのみ説明させて頂きます。まとめにはクロス集計もありますが、単純集計を中心に説明させていただきます。

まず、7 ページの市民アンケート調査ですが、23 問、属性や今の活動状況、今後に向けての大きく三つの区分で質問させていただいております。(1) の回答者の属性につきましては、アンケート結果から回答者のプロフィールを概観すると、性別については女性 (60.9%) が男性 (35.7%) と比べて多くなっています。送付する時点では無作為としておりますが、返送されてまいりました数値はこのようになっております。

年代につきましては、10 歳～29 歳が 12.4%、30～49 歳が 30.9%、50 歳～69 歳が 34.3%、70 歳以上が 20.3%と、若い世代の回答が少ないものの、どの年代からも多くの回答を得ております。

職業については、「無職」(40.9%) が最も多くなっております。これは、高齢の方が含まれていることから、このような結果となっております。

居住年数については、20 年～29 年 (17.9%)、30～39 年 (23.1%)、40～49 年 (18.7%) とそれぞれ 2 割程度となっており、20～49 年で約 6 割を占めております。

問 6 の生涯学習の認知度について見ると、「生涯学習の言葉の内容を知らない」が 76.2%と約 8 割弱となっており、言葉の認知度は低いことがわかります。

生涯学習のイメージでは、「自分自身の教養を高めること」、「趣味や好きなことを行うこと」、「健康のために体を動かすこと」などが高く、概して個人的な学習活動としてとらえられています。内閣府調査結果によると、「生涯を楽しみ、心を豊かにする活動をすること」(42.7%)、「趣味・教養を高めること」(40.6%) が上位を占めており、本調査と同様の傾向となっております。

活動経験の有無では「活動している」が 24.6%である一方、「活動したこ

とがない」が 66.2%と約 2.7 倍となっております。これを言い換えると、「市民の 4 人に 1 人は生涯学習活動している」、「市民の 4 人のうち 3 人は生涯学習活動をしていない」と言えます。内閣府調査結果では、「生涯学習をしたことがない」が 42.5%となっております、本調査（「活動したことがない」が 66.2%）と比べて、本市は全国に比べて生涯学習活動をしていない割合が高いことがわかります。

生涯学習をした人の具体的活動内容は、「スポーツ」が 35.2%、「芸術的活動」が 23.5%、「仕事上で必要なこと」が 12.7%の順となっております。この順番は内閣府調査結果においても、本市と同様の傾向となっております。

生涯学習活動をしている人がどのようなスポーツをやっているかについて付問で聞かせていただいています。順番としては「野球・ソフトボール」が 18.7%、その次に「ウォーキング・ジョギング」12.0%、「グラウンドゴルフ」「ゴルフ」「水泳」がいずれも 8.0%の順となっております。

問 11 の活動時間帯は、「普段の日に 1 時間以上 2 時間未満」が 25.8%、「普段の日に 1 時間未満」が 16.0%、「普段の日に 2 時間以上 3 時間未満」が 15.0% となっております、基本的に普段の日が中心となっております。無職の人が多いということもありますが、だいたい普段の日に活動しているというのが上位に来ております。

生涯学習を行っている場所は、「市内の公共施設」が 37.6%、「自宅」が 15.5% となっております、市内の公共施設が圧倒的に多くなっているということでございます。

1 ヶ月あたりの活動費についてお聞きしたところ、「2,500 円未満」が 50.3%と約 5 割を占めている一方、「7,500 円以上」が 21.1%と約 2 割を占めており、内容を見ますと、仕事関係でお金を多く出してでも活動したいという方もおられます。

次の (10) で生涯学習をしている主な理由は、「その活動が好きだから」が 32.4%、「教養や能力を高めるため」が 16.9%、「健康のため」が 16.4% の順となっております、自分自身のために活動している人が多いことがわかります。

内閣府調査結果では、「その活動が好きであったり、人生を豊かにするため」「健康の維持・増進のため」が上位となっており、全国と比較しても同じような結果となっております。

(11) の身につけた知識や技能などをいかに活かすかにつきましては、「健康の維持・増進に活かしたい」、「地域や社会のために活かしたい」が 2 番目に来ており、外に向かって活かしたいということでございます。「特に活かしたいと思わない」が 12.2% となっておりますが、内閣府調査結果と比較すると「活かしていない」は 7.1% となっていますので、本市は全国に比べて、「特に活かしたいと思わない」人が多いことがわかります。

(12) の活動上で困りごとということで、「忙しくて活動時間が確保できない」が 19.7%、「費用が高い」が 11.7%、「活動する仲間がいない」が 7.5% の順となっており、時間、料金、仲間といったことが困り事としてあげられております。

内閣府調査結果と比較すると、上位 2 番目までは同じですが、「仲間がいない」は内閣府調査では 6 番目になっていまして、本市の方が困っていることの順位において、仲間について困っていることが上位にあります。

生涯学習をしていない理由につきましては、「忙しくて活動時間が確保できない」が 29.0%、「特に理由はない」が 24.0%、「興味が無い」が 8.6% で忙しくて時間が取れない結果となっております。その一方で、日々の生活の中で時間を取りにくいことがやっている人もやっていない人も理由にあげる人もかなりおられることがわかります。ただ、「理由はない」や「興味が無い」といった人も 32.6%あり、この層にいかに関心していかという所になります。

次の 10 ページの (14) ですが、生涯学習の今後の希望、ここからが今後に対する希望、将来についてお聞きしております。

今後、生涯学習の活動に取り組んでみたいかの希望については、「取り組みたい」が 59.3%、「取り組む予定はない」の 36.9%となっており、取り組み志向が比較的高くなっています。

ここで問 8 との設問間クロスをすると、今取り組んでいる人が 24.6%あり、取り組みたいが 59.3%あります。これを引き算しますと、34.6%が潜在需要と言いますか、取り組みたいが今取り組んでいない人がいらっしゃるということが着目点かと存じます。

今後、最も取り組みたい生涯学習の活動については、「音楽、美術、華道、舞踊、書道などの芸術的活動」が 24.1%、「スポーツ(観戦を含む)」が 19.9%、「料理、洋裁、ガーデニングなど家庭生活に関すること」が 12.5%の順となっております。

(16) 生涯学習活動で必要な情報について、「講座や教室の開催に関する情報」が 33.4%、「市内で開催されるイベントの情報」が 17.5%となっており、「催し」に関するものが高くなっております。また、「利用できる施設の情報」が 13.8%と「施設」に関するものが 3 番目となっております。

(17) 生涯学習の活動に関する情報を入手したい方法について、「広報かどま」が 63.1%、「門真市生涯学習だよりなど」が 10.6%、「市ホームページなどのウェブサイト」が 10.3%となっており、圧倒的に「広報かどま」が高くなっています。また、自由意見では、「広報かどま」に関する要望など、情報媒体としては「広報かどま」が一番媒体として有力ではないかと存じます。

それから 11 ページの (18) ですが、市の取り組むべきことについて、1

番目が「生涯学習に関する情報提供」、「利用しやすい公共施設の拡充」が2番目に来ております。

(19) 市と市民の皆さんについて、市と市民の皆さんと協働ということですが、「イベントや講座などの企画」が27.3%、「生涯学習活動を支援することができる人材の育成」、「公共施設の運営」の順となっております。

市民アンケートの設問は以上であります。これ以外に自由意見に書かれている内容は、「施設の利用のしやすさ」「施設の充実」および「利用料金の減額」「生涯学習情報の提供」とアンケートの内容にもありますが、これらのことについての自由意見で要望・意見が多くありました。個別の内容につきましては、資料編をご覧くださいと存じます。

次に13ページ、団体アンケート調査を引き続き説明させていただきます。これについては、団体がどのような活動なされているかと今後、市との取り組みをどうしていきたいかを聞いております。

最初の団体の概要ですが、構成人数は「11～20人」、年齢は「60歳以上」、活動日時は「平日中心」がそれぞれ多くなっております。

(2) の団体の活動頻度については、「週1回程度」が32.3%と最も高く、次いで「月2回程度」、「週3回以上」が12.6%の順となっております。週3回以上活動しているのは、構成人員30人以上の団体が最も高くなっていることが特徴でございます。

新たな会員の受入状況については、「常に受け入れている」が81.3%、「年1回など定期的に受け入れている」が10.5%、「受け入れていない」が7.5%となっております。会員確保の問題が出てきていますが、81.3%が「常に受け入れている」となっております。

活動費用は個人と重なるところもありますが、「1,000円以上2,500円未満」が41.2%と最も高く、次いで「500円未満」と「500円以上1,000円未満」が22.1%で、比較的低い方に集まっているとなっております。

次の14ページですが、交流の機会は「密接な交流の機会がある」と「少し交流はある」の合計が70.8%と7割ぐらいありますが、「特に交流の機会がない」が27.9%と約3割弱が独立的な活動をしていることがわかります。

団体の活動目的ですが、「健康のため」が41.8%、「知識や技能を向上させるため」が30.6%、「会員の楽しみのため」が28.9%となっております。市民アンケートでも個人的な活動が強いと言いましたが、団体でも上位を占めているのは「自分の健康」「自分の知識」「自分の楽しみ」が上位を占めています。今、活動している目的は主にその三つの目的が中心になっています。

(7) の団体の抱える問題点について見ると、「新たに加入する会員が少ない」が51.0%、「活動場所が確保しづらい」が25.9%と会員確保や場所確保の問題が上位を占めております。その一方で、「特に問題はない」が28.6%と約3割の方が団体の問題点を感じていないようです。

(8) の団体の今後の活動意向では、「これまで行ってきた活動を継続したい」が 86.1%、「機会があれば新しい活動を行ってみたい」が 10.9%となっており、ほとんどの団体がこれまで行ってきた活動を継続したい意向をもっていることがわかります。

団体会員の知識などの活かし方について見ると、「健康の増進に活かしている」が 65.0%、「家族や友人のために活かしている」が 26.9%、「普及や指導に活かしている」が 23.1%となっております。

15 ページの(10)で活動成果を社会で活かすこと、社会へ対外的に活かしてみたいことについては、「活かしてみたい」が 61.6%と約 6 割を占めております。その対象としては「高齢者の生きがいづくり」「地域をよくする活動」「子どもの学びや運動支援」で、団体の中では地域の関わりあいで活かしてみたいことが上位となっております。

活動の活かし方はもう少し内容をお聞きしていますが、「高齢者の生きがいをつくる活動」が 60.8%、「地域を良くするための活動」が 45.9%、「子どもの学びや運動を支援する活動」36.5%となっており、高齢者、地域、子どもと受け入れられるキーワードとなっております。

次の問 17 以降は市の取り組み、市との取り組みについて、将来に向かっての質問でございます。

市の生涯学習に関する取り組みで一番望むことでは、「施設予約方法の変更」が 18.0%、「新しい活動場所の整備」17.0%、「既存施設の修繕や設備の更新」13.3%と、施設の利用や整備についての要望が高くなっております。

団体と協働の取り組みができるかについて、「団体紹介の情報収集と発信」が 33.7%、「市のイベントなどの企画や準備」となっており、これらのことが市と共に取り組むといったことが挙げられております。

団体の自由意見について要約しますと、自由意見は 103 件ほど有りまして、大きく 4 つの項目に分類されます。

それについては、まず施設について「施設の設備充実」「施設の増設」といった施設自体の意見、「施設の利用料金」といった施設の料金の意見がございます。

施設利用については、「土日は子どもたちに使わせてほしい」「土日に空きの日がない」「グラウンドの確保が難しい」といった意見が出ております。

また、交通の便では「交通の便の確保」「文化会館へのアクセスを便利にして欲しい」といった交通アクセスの意見がございます。

さらに施設予約については、「時間で予約を取れるようにしてほしい」「少しでも予約が取りやすくしてほしい」などといった意見がございます。

以上が市民アンケートと団体アンケートのまとめですが、もう一つ、団体ヒアリングを実施しております。133 ページの団体ヒアリング調査結果を御覧ください。

133 ページの中段に、ヒアリングを実施した 13 団体に対するヒアリング内容を記載しております。「団体の活動内容」、「活動する上で困っていること」、「どのようにして活動の成果を活かしているか」、「市と団体が一緒にできることは何か」、「今後の団体の方向性」を聞き取りました。

1 番の団体が活動する上で困っていることですが、基本的に団体アンケートの結果を裏付けるものとなっておりますが、抽出すると 5 つ出てきます。会員の高齢化を挙げている団体が 13 団体中 8 団体あり、会員の高齢化を問題点としてあげる団体が相当ございました。これは、団体アンケートの問 4 と重なる所であります。二つ目は新しい人が入らない、若い人が入らないと挙げている団体が 2 団体あり、団体への入会の問題も存在することがわかりました。常時受け入れている団体もありますが、なかなか入らないというご意見もありました。三つ目はリーダーのなり手がいないなど、指導者の問題を挙げている団体が 3 団体ありました。それから、資金不足を挙げている団体が 4 団体ございます。5 つ目に駐車場不足、練習場所不足の施設の問題を挙げている団体が 4 団体ございました。

二つ目の団体の活動の成果について、これも団体アンケートを強調する形になると思われるのですが、市のイベントへの参加で活かしていきたいということがございます。アンケート調査の中でも同じような項目で「活かしてみたい」が 61.6%もあることからわかるように、もっと市のイベントへ参加して行きたいということでございます。二つ目の丸はそれとは逆なことを記載してあるのですが、成果を出したいが出せないでいるということを課題的に述べている団体もございました。

3 番目の市への要望について、市や団体で一緒になって横のつながり、活動のネットワークをもう少し作ってほしいとの要望がありました。二つ目が市に対して例示的な表現になりますが、「例えば、図書館で子どもたちが学べる文化的活動によって、地域の活性化を図ること」、「施設の予約について、予約が取りにくいことへの対応」、「広報について、見やすくすること」、「団体のイベントについて、紹介などの充実すること」などの要望がありました。イベントなどの企画、生涯学習施設の運営といったことを一緒にやってみたいということがございました。

4 番目の今後の団体の活動について、自然の多い所で子供たちを学ばせたいことから、自然とふれあいを大切にしたいという意見、門真市は山がないのでこういう意見が出てくるのかと思われます。

5 番目のその他につきましては、他市の施設であっても利用できる施設の事例を紹介して欲しいという要望がございました。施設予約システムについて門真市では運用されていますが、パソコンが使いやすくしてほしいという意見がございました。「広報かどま」について、発行が 1 ヶ月に 1 回となったので、紙面のスペースの都合で団体がアピールできる機会が少なくなった

という意見がございました。

以上のような形で、取りまとめさせて頂きました。

今西委員長 市民アンケート、団体アンケート、団体ヒアリングと三つに分けて、調査していただいた内容を短い時間で報告していただきましたが、お話を伺ってご意見や質問などありますか？

 これだけの資料を集めたのは、大変だったと思います。国レベルでの調査と比較頂いて、大変貴重なご意見を頂いたと思います。これについてのご意見はいかがでしょうか？

桂副委員長 門真市の現状について、想定していたものと非常によく似た結果が出てきましたが、これが裏付けになるので、非常に良い資料だと私は思いました。大阪府全体もそうですが、門真市でも若年層は働いています。職場の中でも生涯学習をできなくなっている現状がありますね。高齢の方は時間があるので生涯学習は出来るのですけども、社会に還元するということだと、中には自分の中で完結してしまっていて、それをどう活かすのかという課題が見えてきたなと思います。

今西委員長 他の委員の皆さんの意見はいかがですか？

清澤委員 生涯学習という言葉ですが、このアンケートにもあるように、教養を高めたり、社会的貢献、生きがいなど広範囲な形の言葉として、捉えられていると思います。今後広めていく際に、この生涯学習という言葉を、もう少し上手い表現が出来ないものかと考えています。アンケートの中ではうまく質問を伝えられていましたので、素案においてもわかりやすくしてもらえたらと思います。

事務局 これを通して、希望する市民像というモデルが提示出来れば市民の方もわかりやすいかと思います。

今西委員長 今おっしゃっていただいたように、生涯学習という言葉の難しさというのは抽象的概念ですので、具体的なものを提示して説明していくとわかりやすいと思います。他の委員の皆さん方、ご意見どうでしょうか？

石原委員 情報の収集というのは、かなりの方が「したい」「知りたい」というのはあります。私も含めてですが、どうしても広報紙のように活字に高齢者は収斂してしまいます。生涯学習活動をするときに、パソコンなどで他市などの多くの情報が出てくることになります。ただ、パソコンからの情報取得はまだ少なく、広報紙からの取得の方がパーセンテージとして高いのではないかとこのアンケ

ートからわかりました。それを今度、どのようにして市と市民に浸透させるのが問題です。

生涯学習という言葉が友達と喋っていると「図書館と生涯学習は違うのではないか？」と言われます。今後、図書館と文化会館がひとつになって生涯学習の施設になることにより、市民の理解が進むと思いました。

今西委員長 先ほど清澤委員がおっしゃった具体的な意見の中で合わせていくというよりも、言葉の議論になると仕方ありませんので、先ほどの意見でうまくやっていけばいいのではないかと思います。他の委員の皆さん方、ご意見いかがですか？

山田委員 先程と同様な意見ですが、生涯学習という言葉が若い世代を中心にちょっとわかっていないという気がします。先日の生涯学習特別研修に参加しまして、市民側からするといい話を聞かせていただいたと感じています。これを出来れば地域に持って帰って、地域の住民の方などにも話を聞いていただいて、住民の方の意識改革をしていけばいいのではないかと思います。門真市では今後ワークショップを計画されているそうですが、これも非常にいいことだと思います。また、自分の地域に持って帰って、自治会で話していただいて、話を出来る場を設定できればと思っています。

宮本委員 私の場合は音楽活動をしています、市民の方が生涯学習活動において身につけた知識などを、地域で活かしてほしいと思っています。スポーツの世界もそうですが、アンケートにも「身につけた技能や知識をどう活かすか」という設問で「地域や社会のために活かしたい」という意見も相当あります。これが、結果的にボランティアをするということにつながるのではないかと思います。その辺をうまくまとめあげて、市民が参加できるようにしていけば、生涯学習がかなり進むと思います。

今西委員長 かつての中央教育審議会の答申で、生涯学習と地域との関係性を三つのタイプにまとめています。ひとつは教育や学習を受けることによって、その成果を市民活動に活かす。ひとつは市民活動をやっている人がさらにレベルアップするために教育や学習を受ける。もうひとつは市民活動をやりたいと希望する人が教育や学習を受けるという三つのタイプがあります。こういった指摘がありますので、学習成果を出来るだけ「市民活動」に変えていくという、そうすると「市民活動」という言葉はいいかもしれませんが、生涯学習と比べれば。生涯学習という意味は非常に広いので、今のように「市民学習」という言葉もいいと思います。そういったことを考える必要はあるのかということも思いながら、宮本委員の意見を伺っておりました。他の委員の皆様方は、ご意見いかがでしょうか？

岡本委員 質問ですが、生涯学習ということで本市のアンケート調査では意識が低いと
なっていました、生涯学習を知らず知らずにやっていた人もいない
かと思います。私自身も「これが生涯学習か」「どれが生涯学習じゃないのか」
という棲み分けがはっきりしないところがあると思います。その辺の説明をど
うしていけばいいのか、一般市民は特に思います。その辺の詳しい所を詰める
といいのではないかと思います、いかがですか？

今西委員長 アンケートをするにしても「生涯学習は知っていますか？」と「知っていま
すか？」と言われても、実際は知っていると思います。今、おっしゃったよう
にズレが出てきています、これは。

事務局
(ユーエヌ) 問 6 と問 8 のところですが、今回「生涯学習とは？」と入れたので、少し学
習していただいたのかと考えます。問 6 で「言葉を知らない」が 76.2%ありま
した。問 8 では「生涯学習をしていますか？していませんか？」とお聞きして
いますが、「しています」と答えたのが 26.4%となっています。このアンケート
の中で生涯学習というのはこういうものかと、今まで言葉を知らずに出てきて
いるのかと思いました。

今西委員長 アンケートは啓発の意味合いもありますので、そういう所でわかっていただ
ければよいですが、なかなか説明が難しい。教育を受けることや自ら積極的に
学ぶことを生涯学習ということで、定義しておけばいいと思います。

私の方からよろしいですか？ひとつは、回収結果のサンプル数が少ないです
が、これはどういうことからですか？

事務局
(ユーエヌ) 4 割ぐらいは欲しいところですが、そこまで届きませんでした。

今西委員長 その理由はどこにあるのですか？

事務局
(ユーエヌ) 類推になるのですが、言葉を知らないようなアンケートが届いて、書く前に
やめてしまったという原因が一つ考えられます。先程もあつたのですが、「内容
を知らない」という方が 8 割ぐらいいらっしゃいました。そのような方で答え
ている方もいますが、「何のアンケートか？」と最初に思われて、その段階で止
まった方もいらっしゃいます。一般のアンケートと比べてそれほど難し
いものではないのですが、入り口の所で止まられたのではないかと個人的には
思いました。

今西委員長 説明の文章をもう少し分かりやすいものをつけておけば、良かったかもしれません。これも原因はわかりませんが、気になったところです。

それから、事務局はこの結果を踏まえて特にこの点を計画に反映させたい点がありますか？

事務局 まず、認知度が低いという現状がわかったところでございまして、ここに立脚して計画を作っていかなければならないということで、他市よりも生涯学習のことをしっかり説明しなければならないと思っております。

あと、計画本文について具体的にヒントとなるような方法がいいということが多かったですが、これについては計画本文そのものになることよりも、各事業に活かすことになります。これが今回出来上がりましたので、来年の事業計画や施策立案をしていく際にはこういう前提条件がプラスに働くかと思えます。

今西委員長 認知度が低いことをプラスとして、さらにこれを出発点として、皆で考えて作っていきましょうということで今後の事業に活かしていければと思います。

他に委員の皆様方、ご意見いかがですか？特にございせんか？

大変な作業をして頂いて、しっかりまとめて頂いて、敬意を評したいと思います。資料編についても、私達研究者からみると、貴重な資料になると思います。

余談ですが、内閣府の調査もありますが、国立教育政策研究所や社会教育実践研究センターでもずっと同じ事をやっておられるので、それらとの対比もあれば非常におもしろいものが見られるのではないかと思います。

それでは次に進みたいと思いますが、よろしいですか？

事務局 失礼します。一点、事務局から諮りたいと思います。

この生涯学習推進基本計画のアンケートの報告書ですが、先んじて 3 月頃に校正・印刷を済ませて、4 月頃には市のホームページや社会教育施設等で公開したいと考えておりますが、このことについて皆さんの意見をお諮りしたいと思います。

今西委員長 アンケート報告書の完成は 3 月頃ですか？計画に先んじて、アンケートの報告書を出すということについて、いかがでしょうか？

桂副委員長 早いほうがいいと思いますので、それをご覧になって意識の高い方は「ああ、そうなのか」という意見が出てくると思います。アンケート結果ですので、私は賛成です。

今西委員長 今、桂副委員長から賛成の言葉が出ましたが、委員の皆様方はそれでよろしいですか？

委員 (異議なし)

今西委員長 では、それでよろしくをお願いします。

事務局 ありがとうございます。

今西委員長 それでは、次の案件3「門真市生涯学習推進基本計画の概要」について、事務局より説明をお願いします。

事務局 それでは、案件3の「門真市生涯学習推進基本計画の概要」についてご説明いたします。これにつきましては、資料7の「門真市生涯学習推進基本計画 概要（素案）」をご覧ください。

本日、資料の差し替えがございます。旧のものをお持ちの方は、見比べていただいて結構でございます。差し替えの箇所といたしましては4ページの「生涯学習の意義」という所です。3項目の生涯学習の意義という所で「生涯学習は」という出だしで始まっている旧の方と「生涯学習活動を行うことで」というような新の方がありますが、これは旧の日本語がおかしいという意見がありましたので、ここだけ修正したものでございます。事前に配布した旧のほうを見ていただいても差し支えはございませんので、初めにこのことだけ触れまして本文に入っていきたいと思います。

この「門真市生涯学習推進基本計画の概要」は、来年度から本格的に計画本文を作成していくにあたり、まずは計画の大まかな枠組みを本日の策定委員会で検討しようとするものです。本日素案として提出するまでに、検討委員会及びワーキンググループで半年間検討を重ね、事務局が取りまとめたものでございます。

まず、資料の2ページをご覧ください。左上に「1」という数字を付しております。この素案の構成につきましては、計画本文のもととなることを意識して、6つの章立てを作っております。先ほどの「1」の左上の数字が本文で章にあたるものでございます。

2ページにつきましては、「門真市生涯学習推進基本計画の策定にあたって」というタイトルで、「計画の趣旨」、「計画の位置づけ」、「計画の期間」など、計画を策定するにあたっての前提となる事項を確認として書いております。

このページで重要なことは、「計画の趣旨」の5行目を御覧ください。重要なことが二つございます。まず、この計画は「門真市の生涯学習の推進に関する基本的な方向性を示す」ものであるとしております。つまり、個別的、具体的

なことについては、「計画の位置づけ」の3行目にもあるように、別に個別の諸計画を作成して対応します。個別の諸計画とはどんなものかと申しますと、例えば、スポーツに関することや図書館に関することなど、特定分野のものを想定しております。この計画は、全ての施策の基本となることから、生涯学習の大きな理念や目標を示そうとするものだということを前提として書いております。

もう一点は、「計画の趣旨」6行目にあります「生涯学習に関連する施策を総合的に推進すること」を目的としたものです。生涯学習は市のあらゆる部署で推進されるものだという認識に立ちまして、生涯学習部局だけが使うものではなく、「計画の位置づけ」4行目のとおり、「教育行政にとどまらず、市の他の計画等と連携して推進」することを考えております。2ページでは「基本的な方向性を示すものである」ということと「他部局と連携して、門真市全体として進めるものである」ということを強調したいと思います。

3ページには参考として、門真市第5次総合計画に謳われている「門真市の将来像『人・まち“元気”体感都市門真』」のイラストを掲載しております。

このページでお伝えしたいことは、大きな目標は市の総合計画と同じだということです。生涯学習推進基本計画が目指すものが、なにか別にあるということではなく、同じ目標に向かっていることを生涯学習を通じて一貫性、連動性を強調しております。

次に4ページをご覧ください。ここでは生涯学習のことについて、その定義や分野、意義などを説明しております。これは他の自治体の計画でも一般的に書かれておりますが、コラムにもあるように、門真市では生涯学習という言葉の認知度が非常に低いという調査結果が出ております。そのことから、特にわかりやすく、きちんとした理論がありながらも、生涯学習の意義をどう書こうかということを伝えたいと考えております。

現状として定義や分野、意義につきましては、多くの自治体で採用されている一般的な内容としております。今後、本文を作成していくにあたり、皆様のご意見や今西委員長のご意見をいただきながら、書き換えていこうかなと考えております。

次に5ページを御覧ください。第3章では「門真市における生涯学習活動の現状と課題」を明らかにしたいと考えております。今回は、特に市民のことについて、アンケート調査結果をもとに書いております。現状と課題は多くの自治体で書かれていますが、特に「門真市では全国平均に比べて生涯学習活動が活発でないが、一方で取り組みたいという人が非常に多く、大きな可能性を秘めている」こともありますので、現状を悲観するだけではなく、現状と課題ということで蓄積していきたいと思います。これを膨らました形でより詳細な現状分析を重ねたいと考えております。

次に6ページを御覧ください。この次から基本計画の理念や目標、施策に入

っていくにあたって、ここまでの4ページをまとめたものを、「どうして生涯学習推進基本計画が必要なのか」というタイトルとしてコラムを書いております。本文でも、このようなコラムを随所に加えることによって、市民の皆さんに読みやすいものをつくっていきたいと考えております。

ひとつ、このコラムで最も意識的にお伝えしたいことは、下から5行目の「行政と市民が同じ理念や目標を共有して、有機的に連携しあって進めていきましょう。」というところです。これがこのコラムで最も言いたかったことです。コラムはもっとわかりやすく、あるいは「市民生活を通じて書いてはどうか」や「もっと具体的に書いてはどうか」など、アイデアはたくさんございます。こういったところでおもしろい話や関心を惹く話を挿入していければと思います。今回は今までの4ページをまとめて、計画の必要性を訴えるという少し固いものになっていますが、そういう趣旨で作っていることをお伝えしております。

次に7ページをご覧ください。この第4章からは、計画の基本理念、基本目標、基本施策を順次記載しております。ここから、皆様に特にご意見をいただきたいところがございます。この三つの構造としましては、2ページの図1にもお示したとおり、基本理念があり、それを前提として市の将来像を実現するための基本目標を備えます。その基本目標を実現するための基本施策があるという三層構造としております。

まず、基本理念では、計画を策定するにあたりもっとも大切にしたいキーワードとして、「おもしろい」と「人づくり」をあげております。

なぜ「おもしろい」というキーワードを取り上げたかと申しますと、生涯学習という分野では特に人の心に働きかけ、人が新しいことを始めたり、続けたり、人と人がつながったりというところがございます。これら全てに共通して重要なことは、やはり「おもしろい」と感じる心ではないかということで職員の中でも議論をいたしました。また、今西委員長の講演やご意見などでも伺っている所であります。「おもしろい」をキーワードとした行政計画というものはあまり例がありません。しかし、これから門真市をよくしていこうということポジティブに表現するにあたり、「おもしろい」を大切にしようというキーワードがピッタリではないかということで計画に書かせていただきました。

次に、二つ目のキーワードは「人づくり」です。これはジャンルを問わず、多くの自治体の計画で書かれておりますが、多くの場合、ひとつの施策として人づくりを進めていこうと書かれております。しかし、門真市ではもう一步踏み込んで、基本理念として設定しました。これは、人を育むのも、人を活かすのも、人をつなげるのも、全ては人があってのこと、人づくりが最も基本であり、重要であるものだという考えからでございます。具体的には、コーディネーターや指導者、プランナー、地域公共人材、地域デザイナーと色々な言葉で表現されますが、キーマンを育てていこうということにつながっ

てまいります。

次に8ページをご覧ください。ここでは市の将来像を実現するために、基本理念を前提としまして、三つの基本目標を定めております。基本目標では、例えば他市では「まちをどうしましょう」、「組織をどうしましょう」となっています。

今回、人に焦点をあてましたのは、組織やまちをどういうふうにしていくというよりも変えていくきっかけを作っていきましょうということで、基本理念の人づくりとの整合性や、市民の皆さんがこの計画を身近に感じることができるようにという考えからでございます。

また目標というと、数値化可能なもので具体性を持つものという考え方がございますが、この計画が基本計画であるという性格であることから、具体性を持たせるのではなく方向性を表しております。策定後に評価を加える際には、市では、「人を育むことが十分にできているか」、「人を活かすことが十分にできているか」、「人をつなげることが十分にできているか」というような観点になることを想定しております。

最後に、9ページでは、門真市生涯学習推進基本計画の基本施策として、7つの基本施策を書いております。これも基本計画という性格上、スポーツなどの分野を限定して書くのではなく、汎用性が高い、全ての分野に共通する基本的な施策を表しております。

例えば、事業の改善を検討する際に、「その事業の学習情報の提供でもっとできることはないか」、「その事業の学習機会の提供でもっとできることはないか」、「その事業を推進する上で学習施設の整備は十分か」、「その事業で学校や地域社会との連携を進める上でもっとできることはないか」など、基本的な施策としてこれだけは絶対に踏まえようといったことを取り上げております。これは、事業の方向性を示すと同時にチェック項目としても役立つものとなることを狙っております。わかりやすいチェック項目ができれば、市の他の部署においても、生涯学習活動を推進するためにこのようなことを進めてくださいということが伝えやすくなります。また、市民の皆さんにおかれましても、このようなことを市で進めているということがわかることによって、生涯学習行政をチェックしやすくなると考えられます。

説明が長くなりましたが、以上で門真市生涯学習推進基本計画の概要（素案）の説明を終わらせていただきます。もちろん、素案でございますので、皆様のご意見を踏まえた上でもっとブラッシュアップさせた上で、計画の本文を事務局で作っていくということで対応していきたいと思っておりますので、できるだけ率直な意見をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

今西委員長

はい、今日はどの辺りまで議論をしていけばよろしいですか？

事務局 まず、大きく変えていくことが必要で、策定の前提である基本的な方向性の考え方とか、基本理念のところで「おもしろい」とか「人づくり」をキーワードにしておりますので、これでよいかご意見いただきたいと思います。文章などは計画の本文で修正していきますので、そういった大きな所からご意見をいただければと思います。

今西委員長 今、事務局からご説明が有りましたが、委員の皆様方からご意見はございますか？

清澤委員 まとめ方としては、こういうのも一つあるとは思いますが。全体については、生涯学習が終生関わるという感じとなります。表現は今後、色々と検討していくと思われるのですが、それで生涯学習を説明して現状などで基本理念に繋がっていくと思います。その基本理念について、キーワードとして「おもしろい」「人づくり」ということですが、「おもしろい」については生涯学習を具体化すれば、結構うまい表現だと思います。この「人づくり」というのは説明でもあった通り、手段としても捉えられます。むしろ、理念は「おもしろい」と例えば取り組みで「市民がおもしろいと感じたことを大切に、育み、応援する」として制度でやりましょうという形にする。後のところにも施策の中でもボランティアや指導者の育成が出てきますから、理念としては知的好奇心をもった者を大切にするというそういう市民の権利を市が保障するという形にすればいいのではないかと思います。それですと、基本目標としてもそれだけを中心はどういうふうな形でそれが応援できるのかということで、知的好奇心を持った人を育てることによってそういう人を育むという感じでキーマンではなく、人格形成という意味での人づくりということであればいいと思います。どちらかというと、「おもしろい」というところをキーワードにしたものを中心にして、あとは手段の中で人材育成とか色々やっていけばいいと思います。

今西委員長 7 ページの基本理念で「おもしろい」という言葉が出てきて、私も全国のいろいろな計画を見ているんですが、「おもしろい」というのは見たことがありません。

ただ、これに近い発想としては 1971 年のシカゴ大学のロバート・ハッチンスのレポートで、「生涯学習というのはおもしろいもの」ということを書いています。「楽しい」「愉快」ということを大事にしようということで、そういう意味ではこれは非常に良いと思います。今の清澤委員の言葉を重ねて、「おもしろい」ということを押し出すなら、ゆるキャラを使ったらどうかと思いました。そこで門真市のイメージキャラクターである「ガラスケ」のようなゆるキャラを使って、いろんな形を表現したらおもしろく伝わるのではないかと、今後検討してみてください。うまくゆるキャラにものを言わせてみたり、いろんな表現、微妙な表現がわかりやすく伝えられる、具体的に伝えられればいいと思います。そ

れで、門真らしさが出てくるのではないかと思います。委員の皆様方、ご意見をどうぞおっしゃって下さい。

宮本委員 委員長が今おっしゃったのは、「ガラスケ」をマンガチックで描いて皆にわかりやすくするということですか？

今西委員長 そういうことも考えていくといいと思います。将来的には、「おけいはん」と「ガラスケ」が繋がって新しい文化が出来ればおもしろいと感じます。

桂副委員長 絵も堅い今までのものから、新しくゆるキャラを使う方が幅広い年代の方にわかりやすいと思います。

宮本委員 特に若い方は、こういうマンガやキャラクターが喋っている形がわかりやすいと私も思います。

今西委員長 これについては、また検討してみてください。

桂副委員長 「おもしろい」というのはおもしろいと思います。興味関心とか楽しいとか、堅い言葉が来ると思います。今ひとつ入っていますが、シニアカレッジがやはりおもしろいです。行くと楽しいということと人は楽しい、新しい友だちが増えるというそういう効果があると思います。最後には行政が仕掛けをしますが、協働して「主人公はまちの人です、皆さんです。そして、行政に頼って今までなんでもしてもらうのが当たり前みたいところから、税金払っていますが、少なくしようと思えば自ら動いて、一緒にやりましょう」という筋道が見えています。入口としては「おもしろい」が来て、やりかけたら遠くに見えるのは「人づくり」から協働というイメージかなと思ってこれを見させていただきました。これを平行に三つ書かないで、入り口からちょっと何かあるとよいと思います。

今西委員長 ちょっと、私からよろしいですか？ひとつ、先ほどの 7 ページの基本理念のところなのですが、清澤委員が「人づくり」というのはいろいろな意味で盛り込むことができますから、全体を「おもしろい」としてはどうかということは、それはそれでよろしいと思います。

しかし、私としては別の外部の意見として、三つ目に「生活を高める」「生活の向上」は、生涯学習基本計画には絶対に必要だと思っております。ここでもなくてもいいのですが、どこかでこれを盛り込んでいただければと思います。やはり生活を良くすること、産業や色々なこと、あるいは健康を増進させることは結局、生活を高めることと私は考えます。そのことは生涯学習の目的として、

どこかにおさえて欲しいということを意見として申し上げておきます。また、どこかで考えてみて下さい。

事務局 今、現状の資料をご覧になった時にどういう所に盛り込むのが、適切だと思いますか？

今西委員長 今、言っていた基本理念の三つ目に入れてもいいと私は思いました。ただ、清澤委員の考えもとても貴重な意見ですので、そうなると別の形になるのではないかと思ったりしながら、お聞きしておりました。

清澤委員 基本的な捉え方で生涯学習を推進するスタッフを育てるということではなく、市民としての理想像、人格形成とかの意味合いであればおかしくないと思います。それは色々と生活向上というか、生活の充実につながっていきますので、その意味での「人づくり」という捉え方であればここに書かれていることもいいのではないかと思います。委員長がおっしゃったように、まず「おもしろい」から出発して「人づくり」や市民生活に波及していくのはいいのではないかと思います。

今西委員長 委員の皆様方、ご意見はいかがでしょうか？
 ちょっと、全体的に堅い感じがします。これはイメージの話でよく見ていない状況でこれを見ているので少し失礼な話ですが、これ自身を「おもしろく」していただければと思います。
 これから色々事務局で考えて頂いて、ご提案も色々出てくるとは思いますが、大きな所でこのような形でよろしいですか？

清澤委員 まとめ方を少し入り込みやすくするような形で、例えばテーマでも、あるいは図は門真市の将来図のものとして捉えられているので、これから今後あらゆる部分に生涯学習が関わってくるというような、もうちょっとタッチアップした表現があればいいのではないかと思います。基本的に第 5 次総合計画から色んな施策があって、横に推進計画があってお互いに連携しあうというそれはいいと思います。ただ、現状は個別の諸計画だけ横に出して矢印書いていますが、これを基本計画という大きな箱でお互いの連携やり取りをするのでいいのではないかと敢えてやってみるとわかると思います。

今西委員長 「人・まち“元気”体感都市 かどま」、これについてはどうですか？これは、決まっているフレーズですか？

清澤委員 これは、決まっているものです。

事務局

これは、第5次総合計画で使われています。

今西委員長

そうですか、これはいいと思います。私もよく、生涯学習がどういうことかと言われた時にこう答えております。それぞれのまちに市民憲章がございますが、「市民憲章を具体化する学習活動、それが生涯学習」と言っています。市民憲章というのは一つの理想で、大体は抽象的な文章が多いです。それを具体的に市民憲章に限らず、「計画を具体的にどうするかということを皆で考える、具体的にこうしましょう、こんな学びをしましょう。それが生涯学習なのだから、何も行政が生涯学習の具体的なものを出さなくても、その都度その都度で住民が行政と共に協働して考えてやればいい」といつも言っております。

今日も先ほどの話で「この計画の策定は総合計画の実現のため」という大変重要なことをおっしゃったので、総合計画という一つのタブが今あります。それで「知を流す」というよりも、「知を通わせる」「心を通わせる」、その知と心に当たるものが生涯学習といえます。その「知」は血液の血という意味もありますが、ここでは知識の「知」という意味です。「知を通わせる」「心を通わせる」というものが推進計画、基本計画だと考えればいいと思ったりしながら、先ほど説明を聞いていました。そのようなイメージを持っていただくというのが私の思いです。

今西委員長

他の委員の皆様方のご意見いかがですか？

それではこれからのごことですので、大枠としてこの形で進めていくこととします。今日出たご意見を踏まえて、素案をまた考えていただけると幸いです。よろしくお願いします。

それでは、案件4「その他」に行きましょう。

事務局

それでは、案件4「その他」のひとつとしまして、策定委員会の日程についてお伝えさせていただきます。お手元の資料4「平成25年度スケジュール」をご覧ください。次回の策定委員会につきましては来年度、平成25年5月中旬に予定しております。本日は特に決めた案はございませんので、日程につきましては追って事務局から連絡させていただきたいと思います。

また、年度をまたぐことではございますが、委員の皆様につきましては継続して委員会にご参加いただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。次回の日程につきましては、以上です。

今西委員長

それ以外に、ご意見はよろしいですか？委員の皆様から、なにかございませんか。では、以上をもって、第3回の門真市生涯学習推進基本計画 策定委員会を終わらせて頂きます。委員の皆様、ありがとうございました。

